

《特集：大学図書館のキャリア支援》

大学図書館ができるキャリア支援 —城西大学水田記念図書館の取り組み事例—

関口 千登世^{*1}, 甲田 さと美^{*2}, 塩入 ますみ^{*3},
中新 佳宏^{*4}, 佐々木 祥介^{*5}

【抄録】 昨今、大学図書館に求められる役割は多様化しているが、中でも学生支援の一つとして、キャリア教育支援は、学生の就職活動をバックアップする上で重要である。城西大学水田記念図書館では、以前より様々な学生参加イベントや講習会を実施してきたが、本稿では、その中から、キャリア支援を目的として活動した事例を取り上げ、今後の展望を交えて報告する。

【キーワード】 城西大学水田記念図書館、キャリア支援、就職活動支援、大学図書館、教員との連携、他部署との連携

1. はじめに

文部科学省学術分科会での審議「大学図書館の機能・役割及び戦略的な位置付け」の中で、「大学図書館に求められる機能・役割」として「教育活動への直接的関与」が挙げられ、「情報リテラシー教育は、大学図書館が主体となって取り組むことが求められている」¹⁾とある。また、平成23年度の大学設置基準改正により、大学におけるキャリア教育が義務化²⁾され、本学でもキャリア教育の講義が初年次から導入されている。これらのことから、大学図書館が担う役割として、従来の学習支援に加え、キャリア教育における、情報リテラシー教育への参加が期待されていると考えられる。

城西大学水田記念図書館（以下、当館）では、

「図書館の資料と場所を余すところなく活用してほしい」という思いで、様々な学生参加イベントや講習会を実施している。本稿では、その中でもキャリア支援を目的として実施した事例を取り上げ、今後の展望を考えてみたい。当然のことながら、これらの取り組みは、図書館だけで完結するものではなく、教員、職員、学生等との連携により、初めて「図書館のキャリア支援」として実践することができたと考えている。

2. 就職課と連携した経緯

2011年12月、図書館が行った就職関連の展示において、就職課職員の一人に選書の協力をお願いしたことがきっかけとなった。この職員は毎日図書館を利用しており、声をかけやすい状況にあったことも幸いした。また、全学的にキャリア教育を進める中で、「部署の枠を超え、全学で取り組む」という大学の意向もあり、就職課長に何度も相談を持ち掛けるうちに、徐々に協力体制が整っていった。具体的には、次に述べる取り組み事例において、資料の選定、内容の共有、講習会内、上映会内での学生に向けたアドバイスの実施、広報等、様々なプロセスで協力を得ている。

^{*1} Chitose SEKIGUCHI, ^{*2} Satomi KOTA,

^{*3} Masumi SHIOIRI, ^{*4} Yoshihiro NAKANII and

^{*5} Yosuke SASAKI

^{*1} 城西大学水田記念図書館

〒350-0295 坂戸市けやき台 1-1

^{*2-5} 日本アспектコア株式会社

E-mail: library1@josai.ac.jp

3. 取り組み事例

3.1. 展示で行う就活支援

当館では、蔵書の紹介と利用促進を図り、2008年度からテーマ展示を行っている³⁾。

展示は、毎年3月に次年度のスケジュールを立て、テーマは学習支援やキャリア支援に結びつくもの、価値観や視野を広げ、探究心を育てるものであるよう考慮している。また、展示台を使っ

てのテーマ展示とは別に、ブックトラックを用いたミニ展示もしている。ミニ展示は、社会的に関心の高い出来事、旬の話題や時事問題に関連したものなど、速報性を重視したものである。

キャリア支援の発端となった就職活動（以下、就活）に関するテーマ展示は、2009年度、2010年度の大学生の就職内定率が低下し、就職氷河期の再来といわれたことから⁴⁾、図書館でできる支援はどのようなものかを考え、取り上げたことが最初である（テーマ展示『就職氷河期を乗り越える』2010年9月、10月）。

展示期間は、就職課が行っている「就職ガイダンス」の時期に合わせ、就活関連の図書や雑誌はもちろん、就活の手順やマナーが映像で学べるDVD、新聞記事や企業情報が調べられるデータベース等を紹介した。

翌年の2011年10月は企業本特集「会社のなかみ」と題し、経営者や企業の経営方針などがわかる資料を展示した。年度末に「就職支援図書コーナー」を新たに設置した際は、コーナー配架資料の一部を館内中央にブックトラックで出し、コーナーのPRを兼ねたミニ展示を行った。

就活支援展示は、以降もテーマ展示、もしくはミニ展示で毎年行い、2014年度は、就活の前段階である「働くことの意味」をテーマにした展示を行った。この展示では、あえて就活メソッドではなく、「働くこと」そのものについての学術的な考察や分析をしている図書を中心に展示した。これらの資料を通し、多くの考えや価値観に触れることで、自身の生き方を考える機会にしてほしいという意図があった。展示台には、自伝、社会学、倫理学、労働問題などの切り口から書かれた資料や、実際の仕事現場を紹介するDVDなど



図1 テーマ展示『WORK「働く」を考える』
2014年12月

を、紹介コメントのPOPをつけて1カ月間展示をした（テーマ展示『WORK「働く」を考える』2014年12月）（図1）。

就活展示を行う際の課題として、「いつも同じ内容」「紹介する資料が変わらない」といったマンネリ化した印象にならないよう、その都度、テーマの切り口や視点を変え、興味をもってもらえるよう工夫をしている。また、すべての展示にイえることであるが、手にした一冊の本や情報だけで終わることのないよう、次の一冊、次のステップへとつながる展示構成であることを常に心がけている。

3.2. 就職支援図書コーナーの設置

2011年10月、企業本特集「会社のなかみ」の展示期間中、本学教員より就活関連に特化したコーナー設置の要望があった。日本経済団体連合会が定めている新卒採用時期の自主ルール改定により⁵⁾、一連の就職活動スケジュールが変更したことから、学生の就活支援強化のため、資料の充実を希望するものであった。

それまで就活関連資料は、シラバスコーナー（シラバスで教科書指定された図書、参考資料を配架）、一般書架、資格試験コーナーに配架していたが、この要望を受け、2011年12月に「就職支援図書」としてコーナーを独立させた。就職課内にも就活関連の図書を並べたコーナーが設置されているが、図書館全体の蔵書構成との関連も考え、図書館内にも設置することにした。その際、

要望があった教員からの購入希望を受けるとともに、就活の現場に熟知している就職課にも選書の協力を依頼し、資料の充実を図った。

現在、就職支援図書コーナーには、『会社四季報』、『就職四季報』を始め、就活のノウハウ、業界研究、職種研究、SPI、面接対策、時事問題に関する参考書のほか、就職課のアドバイスにより、『13歳のハローワーク』などの読みものの的な資料もとりに揃えている（2015年1月現在、複本含め329冊）。

当館では、2011年度より、Web上に仮想本棚が作れるサービス「ブックログ」に参加しているが、展示や新着図書と共に就職支援図書コーナーも紹介している⁶⁾。

コーナー設置により、就活生だけでなく1・2年生にも就活に必要な資料が手にとりやすくなり、図書館が実施するガイダンスでも、資料と場所の案内がしやすくなった。また、オープンキャンパスなど学外からの見学者に対し、図書館でも就活支援を行っていることをPRしやすくなった。

コーナーの設置に教員、就職課、図書館が連携して関わったことは、その後の取り組みにつながる重要なきっかけとなった。

3.3. 映像資料を使った就活支援

3.3.1. 就活DVD上映会

当館では、2012年5月より、所蔵する映像資料を活用し、就職支援DVD上映会を開催している⁷⁾。就職課と連携し、プログラムに改良を加えながら、これまでに計9回行ってきた。参加者も順調に増加し、2012年12月、第1回目の開催時（実施期間：8日間）は47名の参加だったが、2014年10月から12月にかけて開催した9回目（実施期間：15日間）には250名の参加があり、約5倍の人数となった。

上映会の基本プログラムは、DVDの上映に加え、就職課と図書館の職員によるアドバイスで構成されている。なお、使用するDVDは著作権を考慮し、上映が可能なものを選定しており、不明な資料に関しては、出版元に許諾を取った上で使用している。

冒頭、就職課職員によって、就活の基礎知識の

ほか、「企業研究」や「自己分析」など、その日の上映内容に沿ったテーマでのアドバイスが5分間あり、学生からの質問も受けつける。その後、約25分間のDVDを4本視聴し、最後に、図書館職員から、企業・業界研究に役立つデータベースの解説と、図書館資料の紹介を行う。

約2時間強の上映会の中で、DVDを視聴する時間が大半を占めるが、受動的にDVDを視聴するだけで終わらないよう、レジュメ等の資料は用意せず、上映内容からポイントを書き込むためのワークシートを渡している。このワークシートは、必要な情報を取捨選択し、自分の言葉でまとめることで、自ら考え行動する姿勢を引き出すことを目的としており、学生にも好評で、2014年後期に実施した上映会の参加者アンケートにおいては、250名のうち約3分の1が、良かった点として挙げている。

DVD上映会は、事前の申込みが不要であり、講習会等と比べて参加する際の敷居が低いため、1・2年生の参加者も多い。3年生になって、ようやく就職課を訪れるという学生も多い中、初年次から就職課と出会う機会を設けることで、就活を始める「きっかけ」「動機」づくりに役立っているのではないかと考えている。

3.3.2. テレビドラマを使った授業支援

いわゆる「就活」DVDを使った上映会を継続して開催する中で、2014年1月には、テレビドラマを教材とした企画をキャリア構築授業担当の教員に提案し、授業で実施することができた。テレビ朝日系で放映された、ドラマ『相棒』（Season 13 第5話「エントリーシート」）を職員が視聴したことがきっかけとなり、教員の協力とテレビ局から授業使用の許諾を得て実現した。

ドラマの内容は、就活中の女子学生が、殺人事件の被害者であり、刑事が被害者の足跡をたどるうちに、彼女の就活に対する考え方や、内定を多く勝ち取るために行っていた活動などが、徐々に明らかになっていくというストーリーである。物語の面白さに加え、就職活動全般に関するポイントが網羅された内容で、学生の参考になると考えた。

授業は、1コマ90分間の内、最初の45分間で

ドラマを上映し、ドラマに出てきた就活用資料と、活用できるデータベースを併せて紹介した。残りの45分間はグループワークに充て、同席した就職課職員により、ドラマの内容に関する補足や、アドバイスをを行った。

グループワークでは、学生にワークシートを配り、ドラマのポイントを記述させたのち、グループで話し合い、発表するという構成である。就活に対して、関心や問題意識をもつこと、企業が求める学生像について理解することを目標とした。

このような授業内容に対し、学生の関心は、ドラマの面白さと就活知識の学びを両立させた点に集まった。また、実用的な就活知識の習得だけでなく、自身の意識向上やこれまでの大学生生活の見直し、他の学生の意見を聞くことへの興味につながったという意見もあり、就活だけに留まらない効果を生み出すことができたと考える。

3.4. 就職活動支援としてのデータベース講習会～「日経テレコン」講習会の事例～

日本経済新聞社の発行する各紙の新聞記事や企業情報を閲覧できる「日経テレコン」、ビジネス関連雑誌や医療関連雑誌など日経BP社発行雑誌の記事を閲覧できる「日経BP記事検索サービス」は、レポート・卒業論文作成だけでなく、就活においても、企業・業界研究に役立つデータベースの一つである。当館では、その利用促進のため、毎年前期と後期に各1回、契約先の講師による講習会を実施しており、今年度も以下の要領で開催した⁸⁾。

〔前期〕2014年6月3日(火) 15:10～16:40

レポート・論文対策編、参加者81名

〔後期〕2014年12月16日(火) 15:10～16:40

〈就職課共催〉企業・業界研究対策編、
参加者42名

例年、前期は社会科学系学部の学生を対象に、レポート・論文作成時の利用を想定した講習会を、後期は学部を問わず就活に関心のある学生を対象に、企業・業界研究対策の講習会を実施している。どちらも1人1台パソコンを使用した実習形式としているが、特に後期の企業・業界研究対策編では、新聞記事全般の読み方のポイント、就職試験で面接官はどういった点に注目するか等、

データベースの利用案内に留まらず、広く就活に必要な情報を提供する内容となっている。また、昨年度からは、就職課とチラシの配布などの広報活動を一緒に行い、日程の調整や、講習会内でもアドバイスを行うなど、連携して実施している。

講習会は、データベースの利用促進を目的に実施しており、「日経テレコン」「日経BP記事検索サービス」を全学部で活用できるよう、2014年度後期の講習会は、自然系学部への広報にも力を入れた。その結果、薬学部の学生9名(大学院生2名含む)と理学部の学生8名の参加があり、アンケートには「就職活動や企業との面接対策の時に、多く利用したい」などの声も寄せられた。就活目的だけでなく、「日経テレコン」「日経BP記事検索サービス」には、医療分野、科学技術分野の新聞記事や、日経BP社発行雑誌『日経メディカル』等、自然系分野の学習に役立つ資料もある。就活をきっかけに、幅広い分野のデータベースに触れる機会を学生に与えられたことは、大きな成果である。

講習会で使用した資料は、就職課職員が担当するキャリア教育の授業で教材として使用するなど、講習会終了後も活用された。就職課と連携して講習会を行うことで、情報が共有でき、結果として講習会に参加できなかった学生にも内容を伝えることができたといえる。また、図書館単独で行うよりも、連携し、就職課から解説を加えることで、講習会に参加した学生に、目的をはっきり意識させることができたと考えており、今後も継続して実施していきたい。

3.5. キャリア教育としての図書館主催講演会

2013年度より、紀伊國屋書店と連携し、出版社から講師を招き、以下の講演会を開催した。

【第1回】2013年11月21日(木)15:10～16:40

「岩波書店現役編集者が語る 編集の仕事：

本が生まれるまで」

講師：堀由貴子氏(岩波書店「世界」編集部)

森光実氏(岩波書店ジュニア新書
編集部)

参加者57名

【第2回】2013年12月18日(水)15:10～16:40

「岩波書店現役編集者が語る 編集の仕事：

本が生まれるまで」

講師：首藤英兄氏（岩波書店編集局）

森光実氏（岩波書店ジュニア新書
編集部）

参加者 54 名

【第3回】2014年5月16日（金）15：10～16：40

「本が読みたくなるカラクリ

～出版社の営業ってナニ？～」(図2)

講師：菊池明郎氏（柏書房取締役、元筑摩書房
代表取締役社長）

参加者 73 名

【第4回】2014年10月24日（金）15：10～16：40

「知っておこう著作権」(図3)

講師：伊藤利花氏（岩波書店編集局
渉外著作権課長）

参加者 118 名

実施の目的は、「本」を生み出す仕事である出版社の社員から、直接その魅力について語ってもらうことで、学生の読書推進を図り、図書館の利用促進に結びつけることである。本に対する興味をさらに引き出すため、講演テーマと連動した学生選書も、同会場内で実施した。また、出版業界の第一線で活躍している講師の講演は、キャリアデザイン・キャリア教育という観点から見ても意義のある内容となった。

薬学部からは、第1回は39名、第2回は52名、第3回は26名、第4回は54名、合計171名の参加があった。第4回の著作権をテーマとした

講演会後の質疑応答では、論文執筆中の学生が熱心に質問する姿も見られた(図3)。実施したアンケートには⁹⁾、「本を読みたくなった」「図書館を利用していきたい」といった感想のほかに、「編集者の仕事や考え方を知ることができた」「出版業界や本の流通に関する話に関心をもった」など、仕事や職業に関する感想も多数寄せられた。「仕事とどのように向き合い、どう取り組むか」という意識を学生のうちにもつことは、学部や希望職種を問わず、重要なことである。

また、研究職を目指す薬学部の学生に向け、著作権に関する教育を行うことは、学習支援であると同時に、キャリア支援の一環ともいえる。

全学部を対象に、このような機会を設け、発信することは、図書館だからこそできるキャリア支援の一つと考えている。

3.6. 学生アドバイザーによる就活支援講習会

2014年11月12～14日の3日間、図書館学生アドバイザー¹⁰⁾企画・進行による、就職課共催就活応援プロジェクト「図書館から始める就活」を開催し、37名が参加した。就職活動を経験した学生アドバイザーが自身の経験をもとに図書館の資料やデータベースを利用した就活準備を紹介し、また、就職課職員からも昨今の就活状況について説明を行った。

企画を進めていく際に学生アドバイザーに留意してもらったのは、就職課と図書館、それぞれの立場と役割の明確化である。所蔵されている資料



図2 第3回「本が読みたくなるカラクリ～出版社の営業ってナニ？～」講師：菊池明郎氏



図3 第4回「知っておこう著作権」講師：伊藤利花氏

(就活の基礎的な知識やエントリーシートの書き方、面接対策や業界研究のガイドなど)を使い、図書館では知識や情報の収集が行えること、就活に関する具体的な質問や相談は就職課が行っていることを、参加学生にアピールし、間違いのない情報を提示する必要があった。目的に即した部署を的確にナビゲートすることも支援を行う上で必要なことだからである。また、自身の経験の感想と、就職課のアドバイスとが混同しないよう、配慮が必要であった。そのため、企画段階から就職課に内容を相談し、アドバイスを受けながら連携して行った。

参加した学生のアンケートからは、「参考になった」「就活の意欲が高まった」「現役で就活している4年生の声がきけてよかった」との感想が集まり、後日、参加した学生が直接学生アドバイザーを訊ねにくる姿も見受けられた。

図書館でも、教員のオーダーに応じて就活ガイダンス(資料とツールの紹介)を行っているが、近年の就活体験や、情報収集が実際にどのように役立ったかなど、リアルな体験を交えて語れるのは学生ならではの強みであり、学生アドバイザーによる今回の企画は、図書館員も学ぶことの多い講習会となった。

3.7. 広 報

これまでに紹介した6つの事例のうち、半分の3つがイベントや講習会である。これらは、企画、実施するだけでは意味がなく、参加者を集めなければ始まらない。そこで、当館が行った主な広報についても一例として紹介する。

(1) JUnavi (学生向け、学内電子掲示板システム)での配信

就職についてのイベントを図書館からのみ発信していても効果は不十分であると考え、就職課からJUnavi (学生向け、学内電子掲示板システム)へ配信することで、学生の興味を引くよう工夫した。

(2) 図書館報『BookMark』

各イベントは事前に図書館報に掲載し、告知を行った。また、参加した学生の様子など、事後の報告記事もできるかぎり掲載し、次の参加につながるよう工夫している。就職課職員から学生に

向けたメッセージ「就職課からの声を紹介します～『就職活動のすべて』上映会に寄せて～」¹¹⁾や、巻頭言も掲載している。

(3) チラシ・ポスターの配布

就職課、図書館での掲示、配布はもちろん、全学部の掲示板に掲示した。特に効果が感じられたものとして、授業終了時に直接教室に出向いてチラシを配布し、声がけを実施したことが挙げられる。特に自然系学部(理学部、薬学部)への直接配布を多く行ったが、これは、2014年3月から実施している研究室訪問での「自然系学部の学生は、図書館が行う就職関連の支援イベントは社会系の学生が多く参加するものと思っており、自分たちは少数派なため、参加しづらいと感じているらしい」という、化学科教員からの意見による。図書館職員が直接声をかけ、「自然系学部の就活でも企業研究・業界研究は必要になる。その際、就活DVDや日経テレコンは有用である」「就活イベントは、社会系学部だけではなく、自然系学部も対象である」とPRすることで「自分たちも参加して良いのだ」と感じたようである。こうして手渡しで配布したチラシの枚数は、2014年に就職支援DVD上映会を実施した10～12月の間だけで1,000部を超えた(うち、自然系学部への配布は半数を超える)。また、学生への声がけだけでなく、教員にもメール配信、教員全体へのチラシ配布に加え、図書館来館時や学内で見かけたときなど、とにかく機会を見逃さず声がけを行い、授業内でのチラシ配布を依頼した。

(4) その他

図書館公式Twitter、学生アドバイザー公式Twitterからも告知を行った。また、館内放送に加え、学生団体である広報委員会に依頼し、昼休み時に流す学内放送の中で宣伝を行い、広く参加を呼びかけた。

4. 成 果

ここまでで紹介してきた取り組みにおいて、成果を3つ挙げてみたい。1つ目は、図書館がキャリア教育に積極的に取り組むことで、学生に対し、図書館のイメージを「勉強するための場所」から「就活にも使える場所」に拡大できたこと。

2つ目は、全学部を対象として企業・業界研究をテーマにデータベース講習会を実施することで、これまでは、主に社会系学部を利用対象としてきたデータベース「日経テレコン」「日経 BP 記事検索サービス」「東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー」が、自然系学部の学生にも有用であるとアピールできたこと。3つ目は、キャリア支援に関するイベントにおいて、就職課との共催を通じ、お互いに学生に対する窓口を広げることができ、学生に対する認知度が上がったこと。いずれも、連携することによって、教員・就職課のもつノウハウと図書館のもつ場所や資料が結びつき、お互いに支援の幅を広げることができたといえるのではないだろうか。

5. 今後の展望と課題

一定の成果を得る一方で、課題も残った。例えば、参加人数は順調に増加してきているが、まだまだ全体から見ると少ない。就活 DVD 上映会を例に挙げれば、就活を終えた最終学年の学生を差し引いても、全体の5%程度しか参加しておらず、働きかけが十分にできているとはいえない。広報について効果的な方法を模索していくと同時に、学生にとって魅力のある内容となるよう、試行錯誤していく必要がある。また、今まで実施してきた取り組みを継続するためには、マニュアルを整備し、ノウハウを残していく必要がある。

自然系学部の学生にも継続して参加への働きかけを行いたい。参加した自然系学部の学生からは「薬学向けの講習会をもっとやってほしい」という要望もあり、対象を社会系学部と自然系学部に分けて開催することも検討している。

さらにキャリア支援の質を高めていくためには、就職支援図書コーナーの蔵書拡充、キャリア教育の講義を担当する教員からの依頼で行っているガイダンスの質向上、授業連携の上映会を教員に働きかけ、継続して行う等、教員や学生のニーズを把握し、改善を加えていく必要がある。

今回取り上げたように、キャリア支援は、昨今より重要性を増している学生支援活動の一つであり、全学的に取り組むべき課題でもある。就職課と連携し、実施することは、全学的な活動の中に

図書館を組み込み、位置づけることであり、図書館の存在価値を高めることにつながると考えている。このような他部署との連携は、キャリア支援のみならず、図書館が行う学生支援全般において不可欠である。図書館のもつ資料、場所、データベース、人的資源を余すところなく提供し、大学内を結びつける潤滑油となることで、大学全体としての効果的な学生支援の実現に貢献できるのではないかと考えている。

引用文献・注

- 1) 文部科学省・科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会. 大学図書館の整備について（審議のまとめ）—変革する大学にあって求められる大学図書館像—, (オンライン), 入手先 <http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm>, (参照 2015-01-19).
- 2) 文部科学省. 大学設置基準. 第42条の2.
- 3) 展示コーナー紹介ページ. (オンライン), 入手先 <<http://libopac.josai.ac.jp/guide/tenji.html>>, (参照 2015-02-10).
- 4) 厚生労働省. 大学等卒業予定者の就職内定状況調査（大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職内定状況等調査）：結果の概要. (オンライン), 入手先 <<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/131-1b.html>>, (参照 2015-02-10).
- 5) 就職氷河期の再来懸念, 経団連, 連合と意見交換. 日本経済新聞. 2009-11-27, 夕刊, 2面.
- 6) 城西大学水田記念図書館ブクログ. (オンライン), 入手先 <<http://booklog.jp/users/libjosai>>, (参照 2015-02-10).
- 7) 就活 DVD 上映会統計. (オンライン), 入手先 <<http://libopac.josai.ac.jp/guide/statistics.htm>>, (参照 2015-02-10).
- 8) ガイダンス・データベース講習会統計. (オンライン), 入手先 <http://libopac.josai.ac.jp/guide/statistics/guidance/guidance2014_zenki.html>, (参照 2015-02-10).
- 9) 図書館主催講演会アンケート. (オンライン), 入手先 <<http://libopac.josai.ac.jp/guide/statistics.htm>>, (参照 2015-02-10).
- 10) 2012年10月, 学生が学生に相談できる学生アドバイザー制度を発足. 教員の推薦を受けた学生が図書館長より委託を受けて, 図書館カウンター横の相談席に常駐. 主な仕事は文献の探し方やPCの使い方, 論文やレポートの書き方のアドバイスであるが, アドバイザー企画のイベントや活動も各種行っている. 現在, 大学院生と学部3, 4年生からなる11名を委嘱している. 学生アドバイザー紹介ページ. (オンライン), 入手先 <<http://libopac.josai.ac.jp/apply/adviser.html>>, (参照 2015-02-10).

- 11) 「就職課からの声を紹介します～『就職活動のすべて』上映会に寄せて～」. BookMark. (53), 2012. (オンライン), 入手先 <[http://libopac.](http://libopac.josai.ac.jp/guide/kanpo/kanpo20120708web_2.pdf)

[josai.ac.jp/guide/kanpo/kanpo20120708web_2.pdf](http://libopac.josai.ac.jp/guide/kanpo/kanpo20120708web_2.pdf)>, (参照 2015-02-10).

(原稿受付け：2015.2.13)